

第4回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日時 平成21年2月21日（土） 午前10時～午後12時20分
場所 稲毛区役所 3階 講堂
出席者 委員20人（29人中）、ガイドヘルパー1人、手話通訳者2人
事務局11人（稲毛福祉サービス課6人、千葉県社会福祉協議会稲毛区事務所3人）、市保健福祉総務課2人

【2】議題

- (1) 広報紙（区推進協だより）の発行について
- (2) 区地域福祉計画の推進について～35の具体的な取り組みについて～
- (3) その他
 - 来年度の区推進協議会について
 - 平成21年度委員改選について

【3】議事の概要

- (1) 広報紙（区推進協だより）の発行について
事務局より広報紙の発行について説明を行った。
主な内容は、平成21年1月30日に広報委員会（区推進協だより No.6の校正）を開催。紙面サイズはA3（両面）、発行時期は3月中旬～下旬を予定。
- (2) 区地域福祉計画の推進について～35の具体的な取り組みについて～
稲毛区地域福祉計画地区フォーラムの4つのグループに委員が分かれ、意見交換を行った。稲毛区地域福祉計画の基本方針1～4について話し合いをし、各グループから発表。その後、全委員で意見交換を実施。
Aグループ：基本方針1、Bグループ：基本方針2
Cグループ：基本方針3、Dグループ：基本方針4 ※基本方針5は次回予定
- (3) その他
 - 来年度の区推進協議会について
事務局より来年度の区推進協議会の考え方について説明を行った。
主な内容は、「区地域福祉計画の取り組み状況の把握」を中心に進める。また、今回協議できなかった基本方針5「緊急時に備えた日頃からの取り組み」については、次年度協議予定。
 - 平成21年度委員改選について
事務局より平成21年度委員改選について説明した。
主な内容は、地域の団体・組織等から推薦されている委員については、改めて事務局より団体・組織へ推薦を依頼。公募委員については、3月中に直接本人宛に就任依頼文を送付予定。
前回区推進協で要望があったので、来年度より社協地区部会の増員をする予定。（稲毛区内地区部会全地区部会（10地区）を推薦予定）

※ 小中台地区部会が平成 21 年 4 月に分割予定なので、分割されれば 11 地区部会となる。

【4】発言の要旨

議題（1）広報紙（区推進協だより）の発行について

事務局：平成 21 年 1 月 30 日に広報委員の山崎（弘）・生島両委員にお集まりいただき、広報委員会を開催した。基本の構成は前回と同様だが、1 面に区推進協紹介、市推進協紹介、民生委員・児童委員活動紹介、2 面に稲毛区地域福祉計画（基本方針 3・4）、取り組みの方向性、具体的な取り組み、3 面に稲毛区地域福祉計画（基本方針 5）、取り組みの方向性、具体的な取り組み、地域の実情に合わせた活動例①・②、4 面に千葉市地域福祉モデル事業活動紹介（①千葉市社会福祉協議会稲毛地区部会、②ボランティアグループ「ぐっぴいの会」）、稲毛区福祉の相談窓口を掲載する予定である。

前回の区推進協で記事について募集したが、今のところまだ応募がない状況である。記事 3 面の活動例の 2 箇所を募集したいと考えているが、記事の締め切りは 2 月末日とさせていただきたい。

発行部数については 4,400 部を作成し、発行時期については 3 月中旬～末日を予定しており、配布方法については各町内自治会を通じて回覧形式でお願いする予定である。

質疑応答は特になし。

議題（2）区地域福祉計画の推進について（35 の具体的な取り組みについて）

稲毛区地域福祉フォーラムの 4 つのグループに分かれ、稲毛区地域福祉計画に掲載されている 35 の具体的な取り組み（基本方針 1～5 を各地区フォーラムに振り分ける）について意見交換を行った。

A グループ：生島、大石、杉山、松川、樋口、鈴木

B グループ：星野、山田、松原、茂木

C グループ：後藤、原田、亀山、石原、染谷、大藤

D グループ：飯田、松井、矢田、山崎（一）

委員長：本日は、前回の区推進協議会で 4 つのグループに分けたので、稲毛区地域福祉計画の基本方針 1～4 までを各グループに振り分け意見交換を実施する。A グループは基本方針 1、B グループは基本方針 2、C グループは基本方針 3、D グループは基本方針 4 について、それぞれ話し合いをお願いする。グループ内での意見交換の時間は 50 分程度を目安に行い、その後グループ別に代表の方に 10 分程度で発表していただきたい。

今年度うまくまとめられなければ、次年度も同じような方法での検討することを継続していきたいと考えている。

委員：進め方については、これから説明があるのか。

委員長：稲毛区地域福祉計画に位置づけられた取り組み項目が、

- ①どのように実践されているか。
- ②実践されていないものはあるか。
- ③なぜ、実践されていないのか。
- ④問題点は何か。

の以上の点について検討していただきたい。

副委員長：先程、委員長からグループ別の発表時間を10分程度という話があったが、全体の意見交換もしたいので5分程度でお願いしたい。意見交換をする前に各グループ内で発表する方、メモを取る方を決めてほしい。

～グループ別で意見交換～

各グループから発表

●Aグループ【生島、大石、杉山、松川（発表者）、樋口、鈴木】

＜山王、草野地区＞

Aグループは、基本方針1「地域に住む人々が、お互いを知り、理解することから始めよう」について意見交換した。

基本方針1-(1)-①「挨拶から始まる地域との関わり」についてだが、当地区ではたくさんの事業を町内自治会が中心となって実施している。しかし、10年以上同じようなことをやっており、出てくる方が決まってしまうワンパターン化しているのが現状である。この問題点としては、「地域に無関心になっている」、「危機感がない」等が挙げられる。隣同士が誘い合う、半強制的にでも一人ずつに声かけをし、なるべく全員が参加できるようにすることが大事ではないかという意見があった。一番大事なことは、町内自治会の強化ではないかとのことであった。

基本方針1-(2)-①「地域の情報交換の推進」についてだが、困っている人は、まず行政の相談窓口へ相談している。多少は民生委員・児童委員や町内自治会の方に相談しているようだが、身近にある地域の相談者は、なかなか利用されていないのが現状である。地域の相談窓口という部分を強化することに注目し、各町内自治会組織には組長や班長がいると思うので、年に1回の集金（班を1件ずつ回ると思うので）の際に自治会の内容や組織的なアドバイスをしているのではないかという意見があった。

基本方針1-(2)-②「回覧板での『困った欄』と施設に『困った箱』の設置」についてだが、町内自治会の回覧板の一番下の欄に「困った欄」を入れたら良いのではないかとの意見があった。

～質疑応答～

委員長：何かご質問、ご意見はありますか。

委員：今、発表した方の地域はどこか。

委員長：山王、草野地区です。

委員：長く町内自治会長を務めるのは問題だ、ということだが町内自治会長は長く務めたほうが良い。

委員長：そのような発言ではなく、行事がワンパターン化していて参加する方が決まっているという発言だったと思う。

委員：当地区では自治会回覧を個別に2ヶ月に一度配布されている。これには、「子ども会が〇〇時から〇〇〇で行われる」等、様々な行事のお知らせが届くが、地域の情報が入っているのでとても有効である。

●B グループ【星野、山田、松原、茂木（発表者）】 <緑が丘、千草台地区>

B グループは、基本方針2「気軽に、楽しく、おしゃべりしたり、過ごせたり、活動したりするみんなの居場所づくり」について意見交換した。

基本方針2についてだが、13の具体的な取り組みがあり、これを一つずつ実践されているか、いないかを話し合い、実践されていない取り組みについては、何故取組みされていないのかを話し合った。その結果、実践されていないだろうという取組みが3つ挙げられ、これについて検討した。

まず一つ目が、基本方針2-(1)-⑥「学校での放課後等の子どもの居場所づくりや地域交流の実施」だが、小学生については放課後の居場所が確保されているが、中・高生については、特に放課後の居場所づくりや地域交流の場がないのが現状である。しかし、ある中学校で「夕やけサロン」と称して放課後、部活動をやっていない生徒を対象に地域の方と交流する居場所づくりを実施しようとした学校があったが、校長先生が変わってしまったこともあり、また、場所の確保という問題もあり構想で終わってしまった例もある。場所の確保という問題で、学校の空き教室、商店街の空き店舗ということイメージされやすいが、学校及び商店街によりけりで地域性もある。

次に基本方針2-(3)-①「交通手段の充実に向けて」だが、東京の都心でも走らせているようなコミュニティバスを利用し、例えば千葉⇄稲毛（北部）⇄花見川を結ぶような経路が考えられるのではないかと。ただし、千葉市全体から見ると交通の利便性は地域によって違いがあり、稲毛区全体として捉えれば必ずしも不便ではないかもしれない。一つのアイデアとして、稲毛区内には様々なディベロッパーが入り込んでいるが、開発利益を還元する形で公園や集会所などを提供していたのと同じようにバスを提供してもらおうという考え方もある。

三つ目として基本方針2-(2)-⑥「これからできる施設などについての活用方法の提案」についてだが、実はこの取り組みは区推進協の役割に密接に絡んでいる。これが、何故できていないかという区推進協で全く取り組んでいないからである。区地域福祉計画には、小中台保健センター、保健福祉センターの活用方法について地域福祉計画推進協議会等で、地区フォーラムで出された意見をもとに地域の声として提案していくと書いてあるが、過去の区推進協議会で、このことを話題にしたことは一度もない。当区推進協は、この取り組み事項に対して怠慢であったと言わざるをえない。

取組みされていない代表的な3つを挙げたが、マッチングをどのようにするのが問題である。使用できる場所はあるが、①どこにあるか分からない、②使いたい人がいるがどうしたら良いか分からない等、使いたい人と場所の情報をマッチング

する仕組みや場所に関する情報が集約できていればもう少し進んだ活動ができるのではないかという結論に至った。

～質疑応答～

委員長：何かご質問、ご意見はありますか。

委員：循環バスは申請しているのか。

発表者：具体的に構想があるわけではない。

委員：過去に循環バスを通したことがあるが、並大抵のことではなかった。

委員長：このような方法もあるということでご理解いただきたい。

●C グループ【後藤、原田（発表者）、亀山、石原、染谷、大藤】

＜轟・穴川、301（作草部・天台）、黒砂地区＞

C グループは、基本方針3「身近なところで必要な情報を得ることができる仕組みづくり」について意見交換した。

基本方針3についてだが、情報と相談がキーワードになっている。現在の取り組み状況として、基本方針2-(1)-③「ごはんを一緒に食べる機会づくり」で挙げられる食事サービスを実施している中で個別に相談を受けている場合もある。個別の相談窓口としては、公的なものだけではなく民間の知的障害者通所施設でも相談に応じているようである。ただ、一本化されていないのが現状である。どんなニーズを抱えている方でも、とりあえずどこどこに連絡すれば解決できる、といったような場所があると良いのではないか、という意見があった。

高齢者関係については、情報提供や相談する機会があるように見受けられる。しかし、障害者関係の方は外出できない方などもいるが、情報に接する機会が限られている。また、民生委員まで情報が入ってこないのが現状のようである。

基本方針3-(1)-②「ふらっと寄ることができる場での情報提供」は、基本方針2とも密接な関係がある。ふらっと寄れる場というのは、特定の人だけではなく誰もが集まれる場ということであり、このような場がほしいという意見があった。先程、B グループから話しが出たが、保健福祉センターの活用について区地域福祉計画に書かれていることが当グループでも取り上げられた。いかに立派な建物を建てても中身が充実していなければ意味がないとの意見があった。

基本方針3-(1)-①「地域の情報の収集と発信」についての発信ということであれば、地区部会が地区部会だよりを発行しているが、実感としてはあまり見てもらえていないようである。何かしらの情報を得ようとしている方は見ると思うが、回覧では末端までの伝達は難しいようである。しかし、地域福祉というものは多くの人に知ってもらうことに意味があるので、困っていることがないような方にも見てもらえるような情報の発信の仕方をしていかなければいけないという結果になった。

最後に情報というキーワードだが、この推進協議会は情報のプラットフォームである、と言われてきているが、この推進協議会の開催数が少な過ぎるという意見があった。今回、近い地域の方々がグループに分かれ、顔を見合わせて意見交換ができたので、このような場は必要であることを再認識した。

～質疑応答～

委員長：何かご質問、ご意見はありますか。

質疑応答は特になし。

●D グループ【飯田、松井、矢田、山崎（一）（発表者）】

＜稲毛、稲丘、小中台地区＞

D グループは、基本方針 4 について実際に行われている稲丘地区部会の活動を紹介させていただきます。

基本方針 4- (1) -①「地域で活動している人・組織との連携・協力」だが、当地区部会の役員は、民生委員・児童委員、町内自治会を中心に構成されている。その他、委嘱状を受けている公職やボランティア、社会体育指導員、保護司などあらゆる人材が地区部会のメンバーとして活動しており、それらの団体のリーダーが常任理事となり毎月 1 回の定例会に参加している。

稲毛区地域福祉計画の取り組み状況調査票 24 にある「正月行事 (持ちつき大会)」は、一過性で稲丘小学校が実施していたものを地区部会が引き継いで行っている。大掛かりな行事なので、社会体育指導員を中心とした若い方の協力が不可欠である。餅をつくだけではなく、お手玉、凧揚げ、竹馬等の昔遊びを企画し、参加する小学生に体験してもらっている。

稲毛区地域福祉計画の取り組み状況調査票 25 にある「地域住民健康増進事業」は、平成 19 年度に地域福祉パイロット事業として実施したもので、竹の棒を用いた体操である。このバンブー体操は、高齢者等の外出が困難な方が自宅で簡単にできるように考えたもので、敬老会、地域の運動会、正月行事等で実施し、多くの人に知っていただくように勤めている。

そこで問題になったのが、竹の棒の保管場所である。当地区部会の地域には公的な施設が稲丘小学校しかない。公民館もない。現在は一時的に町内会館に置かせていただいているが、県の地域福祉フォーラム設置支援事業の一部で物置を購入し、稲丘小学校に置かせてもらうように予定している。

D グループ全体としても、集まる場所がない、物を置いておく場所がない、というのが共通の悩みである。

～質疑応答～

委員長：何かご質問、ご意見はありますか。

委員：稲丘地区では小学校しか公的施設がないとのことだが。地区社協とした場合、正式には何社協というのか。

発表者：稲丘地区部会という。

委員：稲丘地区部会には公的施設が小学校しかないということか。

発表者：そうである。

委員長：他にご意見がないということだが、来年度も同じような形で進めていきたいと考えている。まだ、基本方針 5 が残っていると思うので、引き続き来年度も検

討していきたい。

委員：稲毛区地域福祉計画の取組状況調査表について、検討いただきたい。地区部会に○がついていて、他の団体が実施していても○がついていないが、それは地区部会にその団体が属していれば良いのか。例えば女子高がやっていること、その他のところに○がついても良いのではないか。

保福総：そのような形で表記していただいても問題ない。この調査という言い方をしているのは不適切かもしれないが、皆さんが稲毛区内で広く行われている地域福祉活動の状況を知りたい、把握したい、情報交換したいということが主旨で取組状況調査表を作成させていただいた。行政がまとめる計画ではないので、皆さんの情報を持ち寄っていただき、この調査表に記載していただければと思う。他の区の状況としては、もっと分かりやすく改良されているところもある。例えば地区部会の中にも様々な団体が属しているが、どこがやっているのか検討できない、というような話もある。稲毛区の現状が、委員の方々を始め、区民の方々にも確かに地域福祉が進んでいるということを実感できるようにしていきたいと考えている。あくまで、この形が最終形ではなく、これからも皆さんの意見をいただいて更新をしていきたいと考えている。

議題（3）その他

○来年度の区推進協議会について

事務局：来年度も引き続き、「稲毛区地域福祉計画」に沿って 35 の具体的な取り組み状況について意見交換をしていく予定である。また、21 年度は 5 ヶ年計画の 4 年目に入るので「区地域福祉計画の取組状況の把握」を中心に推進協議会を進めていきたい。

本日、グループ別に分かれて協議した中で、意見交換できなかった取り組み項目や計画が実践されていない項目、計画に課題や問題が残る項目について、解決策等意見交換していく予定である。また、今回協議できなかった基本方針 5 「緊急時に備えた日頃からの取り組み」についても、防災・防犯をテーマにした非常に重要な取り組みなので、来年度に皆さんで話し合いをしていきたいと考えている。

推進協議会で意見交換された貴重なご意見は、その都度、議事要旨で報告させていただいているが、最終的には皆さんで意見交換された様々な事柄について、稲毛区で一つの成果として一覧表にまとめたいと考えている。どのような形でまとめるかは、現在、保健福祉総務課と協議中のため、決まり次第、委員の方々には報告したいと考えている。

○平成 21 年度委員改選について

事務局：要綱では任期が 1 年となっているため今回改選となるが、委員の皆さんには、協議会運営の継続性という点から引き続き継続していただきたいと考えている。地域の団体・組織等（町内自治会、社協地区部会、老人クラブ連合会、民生委員児童委員協議会）から推薦されている委員の方には改めて事務局から団体・組織

へ推薦を依頼させていただくので、引き続きお引き受けいただければと考えている。また、団体・組織以外の分野から参加されている委員の皆さん（公募委員等）には、3月中にご本人あて就任依頼文書を送付させていただくので、継続していただける方は承諾書に記入の上、事務局まで返送をお願いしたい。なお、前回の区推進協で委員の皆さんから要望があった社協地区部会の増員については、来年度から稲毛区内全地区部会（10地区部会）から委員を推薦していただきたいと考えている。

事務局：稲毛区内全地区部会が10地区との話があったが、本年4月に小中台地区部会が分割する予定である。正式に小中台地区部会が分割されれば4月以降は、稲毛区内地区部会数が11地区となるのでご了承いただきたい。

委員：来年度のことについて先ほども申し上げたが、保健福祉センター活用について推進協議会で提案していくと区地域福祉計画に書いてあるので、推進協議会で取り上げて、来年度中には、この話しを進めていかないといけないのではないかと考える。

委員長：この件については、千葉市の推進協議会も立ち上がったので、その中の議題の一つになるのではないかと考える。

委員：市の推進協ではなく、稲毛区の推進協で話し合うべきなのではないか。

委員長：各区で取り組んでいる内容を市推進協で報告していくべきだと思う。

委員：そういうことではなく、保健福祉センターの提案についてはどのように検討するのかを伺いたい。

委員：保健福祉センターについては、次回推進協開催時に行政から進捗状況の報告をしてもらってどうか。保健福祉センターの活用について、今から要望を出して間に合うのか、ということもあるので、報告をいただければと思う。既に完成している保健福祉センターの視察に行ってもいいのではないかと考える。

委員：新しくできる保健福祉センターのことではなく、小中台保健センターの活用のことである。

委員：次回、行政から説明をしていただければと思う。

保福総：稲毛区に限らず、各区の推進協に参加させていただいている中で地域福祉活動の拠点が足りない、日頃からぶらっと立ち寄れる相談窓口がほしい等の声を多数いただいた。小中台保健センターの有効活用についての意見は保健福祉総務課として挙げている。

委員：千葉市の計画に書いてある以上はやらなければいけないし、千葉市の計画に基づく提案であれば、千葉市側もこれから揉んで寄ってこなければいけないので、区民や市民団体の提案するものとは違うということが言いたい。

保福総：地域福祉計画の位置づけからお話ししたほうがよいと思う。計画書に載っているものについては、皆さんがどのように稲毛区を良い街にしたいか、築きたいか、について提案いただいた保健福祉部門もしくは街づくり部門についての意見である。もちろんこれが100%実行されるということが目標であり、私どももこれに向かっていくべきではあるが、すべての項目を必ずしも実現しなければいけないということではない。

委員：推進協は一生懸命やらなくてもいいのではないかと感じてしまう。

事務局：皆さんの意見が反映されるように進めていかなければいけないと考えている。今の質問については、来年度に向けて事務局の方針を含めて回答するということをご理解いただきたい。

委員長：大分時間が過ぎてしまったが、これで第4回推進協議会を締めさせていただきたいがよろしいか。

委員：最後に推進協とは関係なく申し訳ないが、社協がヘルパーの事業を撤退するというのを耳にした。理由として市からの補助金が打ち切られるということだが、千葉市の場合、こういった事業所の数が多いわけでもなく、充実しているわけでもない。知的障害の場合、新規は受け付けてくれないというようなこともある。当地域でも孤独死という問題が出てきており、地域の見守りは外からの見守りしかできていない状況である。カーテンが締めつきりである、洗濯物が干しっぱなしである等、外から見守ることしかできない。家の中に入り込めないのが現状である。ヘルパーさんは、家の中に入って支援するので非常に重要なことだと思う。地域福祉という観点では、社協の方々の力というのは非常に甚大である。このことについて知っている方がいれば教えていただきたい。

事務局：ヘルパーの撤退については、現在検討中である。撤退についての目安として、1年程度かけ、雇用、利用者の移行についてスムーズにいくよう調整しているところである。社協もヘルパー事業を長年実施してきたが、赤字が続いている。これをいかに解消するかということが問題となっていたが、非常に厳しくなってしまった。

委員：社協が赤字ということは民間の事業所はやっていけないということか。

事務局：賃金の格差、場所の問題等、具体的にどこがということとは言えないが、全体的に赤字になってしまっているということである。

委員長：これからの検討ということでもよろしいか。

委員：私は何も言えないが、社協の位置づけはとても重要だと思うので考えていただけたらと思う。他の事業所が充実しているのであれば撤退という方向で考えてもいいとは思いますが、実際はそうではないので、市としても補助金を増やすなどすることも検討していただきたい。

委員長：十分手を組んでお願いしたい。

委員：本日は大分時間を超過してしまっているが、これは委員の方々の熱心さの表れだろうと思う。来年度について、できれば隔月でこの会議を開催したいと問題提起させていただく。

委員長：意見として事務局へ伝えておく。

これで20年度の推進協議会を終了したい。お疲れ様でした。

以上